第三號審査問題

大藏省火災保險取調掛之印

114
A 3617
6

貴族院

委員諸君ハ往キニ某日ノ會議ニ於テ數多決議ノ中ニ就キ火災保険ハ東京ヲ以テ着手ノ緒メトシ又東京ニ於テハ美勘上相当ト做スベキ高ヨリ稍々低下ナル保険賦金定價表ヲ実施スベキヿヲ決定セリ然リ而メ賢明ナル委員諸君ハ右両件ノ実際太タ危疑且ツ顧慮スヘキモノタルヿヲ誤認セス之カ救済ノ為メニ東京ト同時ニ西京大坂神奈川及ヒ兵庫ヲモ保険スヘキ旨ヲ決定シタリキ然レトモ此数地モ亦皆大都會ニシテ全國中尤モ火災ニ危険ニシテ且ツ高貴ノ價格ヲ有セル家屋ニ属スルガ故ニ東京及ヒ右ノ諸都會ヲ合テ着手ノ始メト為ス時ハ火災保険局ニ於テ着手ノ初際既ハ美勘ノ缺乏ヲ生スルアルベキヿヲ領承セザル可カラス夫レ右ノ各大都會ハ建築ノ性質甚タ燒燃シ易キヲ以テ各自皆ナ一箇ノ危険物トシテ見做サヽルヘカラス何

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

トナレハ此各都ノ一部ニ大災発出スルアレハ全都或ハ焼燼シ
去ルヿ亦ナキヲ保スヘカラサレハナリ
右ノ諸都會ハ恰モ東京ニ於ケル如ク其危険非常ニ著大ナルモ
ノナレトモ委員諸君ノ此決議ヲナセルハ全ク政略及ヒ行政上
ノ事由ニ因ルヿト信ス即チ施政上ニ於テ右ノ大都會ハ其関係
ヲ有スルヿ極メテ重大ナルト又此諸大都府ニ先ツ施行セシ所
ノモノハ再ヒ之ヲ國内他部ニ挙行スルヿ政略工程タ容易ナル
ト共ニ右諸都府ニ於テ火災保険ハ目下一大急務タルトニ在ル
ヿハ僕モ亦已ニ熟知スル所ナリ
僕思フニ上ニ記載セル非常ノ大危険ハ保険法ト共ニ傍ラ二三
ノ方法ヲ施行セハ能ク之ヲ減殺スルヿヲ得ヘキカ則チ
消防法ノ改良
大都會ニ於テハ厳命ヲ以テ屋宇ヲ改良セシムル事
各都府ノ家屋保険ヲ年月ノ順序ヲ以テ漸次ニ施行スル事
但シ消防法ヲ改良シ又ヒ市府ノ家屋ヲ漸次ニ保険スル等ハ全
ク政府ノ手中ニアリトイヘトモ其家屋改良ノ如キハ稍々此ニ異ナ
リ僕按スルニ政府ハ必ス家屋所有主ニ其改良費トシ低下ノ利
子及ヒ年賦消還方ヲ以テ金円貸與ヲ為スニアラスンハ家屋改
良法ヲ決行シ難シト而シテ其之ヲ為スノ法ハ不動産抵当銀行ノ
設立ヲ以テ無二ノ要法トス
今其功用ヲ例スルニ則チ左ノ如シ
不動産抵当銀行ニ對スル負債者ハ二十四年若クハ二十一年半
ノ間終始一様ニ負債高百分ノ十ヲ消還スルトキハ終ニ其全債ヲ
脱却スルヿヲ得ヘシ但シ右百分ノ十ハ内一銀行事務費ト
シテ百分ノ〇、五利子トシテ百分ノ八或ハ七半及ヒ初年ノ元金
消還高トシテ一半若クハ二ヲ割附クヘシ然ル時ハ不動産抵当

銀行ハ其手中ニ保管スル不動産ノ高ニ應シ百分ノ八若クハ之半ナル利子付キ不動産抵当証券ヲ発行シテ各時須要ノ資本ヲ公衆ヨリ募集スルカ故ニ又敢テ政府ノ費用ヲ仰クヲ要セス（但シ不動産抵当証券ハ記名利子附金券ニシテ即チ不動産ヲ抵当トシ発行スルモノナリ）

家屋保険施行後ハ家屋ヲ抵当トシ金円貸與ヲ為スニ保険價ノ二分一乃至三分ノ二迄ハ貸与スルモ必定堅固ナルモノナレハ此抵当証券モ亦従テ危険アルヿナシ是ヲ以テ右抵当証券ハ私人、政府、貯金預更、救荒豫備資本金、貧民救恤所、及ヒ銀行等カ其資本ヲ充用シ更ニ甚タ適当ナルモノタリ如斯ク該証券ノ全ク堅確ナルヲ以テ苟クモ不動産抵当銀行ヲシテ設置其宜ヲ得セシメハ能ク低利ノ金円ヲ其手中ニ入ルヽヲ得而メ該銀行ハ再ヒ建築改良義務者ニ低利ヲ以テ貸与カルヲ得ルニ至ルナリ

家屋保険、家屋改良義務、及ヒ不動産抵当銀行ノ三者ハ交互相待テ能ク其用ヲ成シ一モ欠クヘカラサルヿ恰モ鼎足ノ如シ

右ニ記載セル事件ニ着目シ来テ僕ハ茲ニ日本ノ大都府ヲ合テ最初ニ保険スルヨリ生スル所ノ大危険ヲ減殺スヘキ為メ左ノ建言ニ諸君同意ノ許諾ヲ請求スルモノナリ則チ

第一項　委員諸君ハ消防ノ効力ヲ増加シテ以テ焼亡償贖高ヲ減下スヘキ意見ヲ陳述セラレンヿヲ要ス故ニ家屋保険局ハ年々不変賦金（第十九項ヲ参考スヘシ）ヨリ得ル歳入八分一ヲ以テ消防改良費ノ扶助トシ大蔵省出納局ヘ納付シ而シテ該局ハ又少クモ右ニ有シキ金額ヲ豫美表中歳出第八款ニ掲ケテ之レヲ警視局及ヒ二府三十五縣ニ交付シ全國中消防設立ノ改良ニ使用セシメラルヘシ

第二項　委員諸君ハ政府ニ請求スルニ家屋保険局ヲ第一項ニ

記載セル扶助金ヲ増加シテ裕カニ支給シ得ルノ日ニ至ル迄ハ
年々若干ノ扶助金ヲ交附シ全國中消防設立ニ供セラルベキ旨
ヲ以テセラルベシ

第三項　右ノ目的ヲ達スヘキ爲メ委員諸君ハ年々別段ニ金五
万円ヲ警視局ニ交付セラレンヿヲ請求シ之ヲ以テ実際練達セ
ル消防長ノ意見及ヒ関渉ヲ受ケ左ノ事件ヲ執行セラルベシ

甲　東京消防組ノ編製、器械及ヒ調練ヲ改正スル事

乙　消防演習場ヲ東京ニ設立スル事

丙　東京ニ於ケル消防演習場及ヒ消防方改良ヲ他日他ノ市
府ニ於ケル消防組織改良ノ基本タラシムベキ事

委員諸君ハ当時其能否ヲ以テ有名ナル伯霊府消防組管理長五
人中ノ一人ヲ傭入レ之ヲ消防法ノ顧問及ヒ教師トセラレ之レ
ト協議ヲ遂ケラルベキヿヲ申請セラルベシ

第四項　人民ヲシテ家屋改良ノ義務ヲ負ハシムルニハ概スル
ニ唯々官立不動産抵当銀行アリ以テ建築ヲ容易ナラシムルヲ
得且其築造セル家屋ハ火災保険局アリテ之レガ保護ヲ爲ス時
ニ於テハノミ能ク之ヲ決行スルヿヲ得ベシ

第五項　人口二千五百乃至二万ニ及フ地ニ於テハ屋宇根ノ全部
若クハ其一部藁葦ヲ以テスルヿヲ禁止ス但談地ニ於テ家屋保
険局及ヒ不動産抵当銀行ノ設立セラレタル後チ三年以内ニ全
ク之ヲ取除カシムベシ

第六項　人口二万以上ノ地ハ屋宇根ノ全部若クハ一部ヲ藁、木材、
薄板（コケラ）、木札、若クハ木皮ヲ以テ葺修スルヲ禁ス但談地ニ於テ家屋
保険局及ヒ不動産抵当銀行ノ設立セラレタル後五年以内ニ全
ク之ヲ取除カシムベシ

第七項　家屋保険局ト不動産抵当銀行及ヒ抵当証券発行場ハ

之ヲ結合シテ以テ左ノ便ヲ得セシムベシ

甲 人口二万以上ノ市府ニ於テ瓦屋根ニ改良スベキ便宜ヲ得セシムル為メ（第六項ヲ参考スベシ）

乙 人口二千五百乃至二万ニ及フ地ニ於テ勝手ニ瓦屋根、築造ヲ為ヲ容易ナラシムル為メ（第五項ヲ参考スベシ）

丙 人口二千五百以上ニ及フ所ニ於テ家屋破壊ニヨリ保険局ヨリ保険金ヲ交付スル時塗家若クハ土蔵造再建ヲ容易ナラシムル為メ

家屋保険局ノ不動産抵当銀行ハ唯タ保険セラレタル家屋ニ對シテノミ金円貸與ヲ為スヘシ

其貸與セル金円ハ家屋ヲ引当トス而メ該家屋ハ已ニ他ニ抵当ト為シタルト或ハ後ニ至リ別人ニ抵当ト為シタルトニ論無ク惣テ該銀行ハ他人ニ先テ之ヲ抵当ト為スノ特権ヲ有スベシ

火災保険局ノ不動産抵当銀行ハ両ノ場合（焼失其他ノ事由ヲ以テ破壊セル家屋ニ對シ保険局ヨリ保険金ヲ交付シ塗家或ハ土蔵造再建ヲ容易ナラシムベキ事）ニ於テモ亦保険價ノ三分二迄ヲ限リトシ貸付クベキノミ

該銀行ハ抵当証書中ニ記載セル高ヲ借用者ヘ現金ニテ引渡シ差引ヲ為スベカラズ

該銀行ハ各時其家屋抵当ヲ以テ貸与セシ金円ノ高ニ至ルマテハ抵当証券ヲ発行シ以テ金円ヲ募集スルヿヲ得ベシ

同銀行ハ抵当証券ノ利子（手数料百分ノ〇、五及ヒ初年ノ元金消還金百分ノ若干ヲ比美シ相当ノ高ヲ見合セ）ヲ該証券元價相当若クハ元價以上ニ融通スベキ程ニ撰ミ定ムベシ

其抵当証券元價以上ノ融通ヨリ得タル所益ハ之ヲ家屋保険局ノ資本金ニ加入シ又手数料トシテ収入セル百分ノ〇、五ハ之ヲ

同局尋常ノ所得中ニ合併スベシ

第八項　家屋保険局ノ不動産抵当銀行ニ於テ資財ヲ借ルト否ヤトハ全ク各人ノ自由ニ委子、而テ該銀行ハ敢テ抵当貸與ノ専権ヲ有スルニ非ス

第九項　人民ノ勝手ニヨリ若クハ利得ヲ射ンカ為ニ建築スル者ニ試銀行ヨリ之ヲ抵当トシ金円ヲ貸与シ扶助スルヿヲ禁止スベシ凡ソ此等ハ全ク私人ノ起業ニ委托スルヲ宜シトス抑々政府ガ家屋抵当銀行ヲ設立スルモノハ唯タ其命令セル建築改良ノ執行ヲ容易ナラシムベキ為メノミ

第十項　人口二万以上ニ及ヘル各市府ニ於テハ其家屋ヲ保険スルヿ須ラク左ノ順序アルベシ

第一期ニ於テハ

（一）屋根ノ全部ヲ瓦若クハ鉄葉トセル家屋ヲ有スル地所ハ成ルヘク速カニ之ヲ保険スベシ

（二）唯タ屋宇ノ一部分ノミ堅牢ノ屋根ヲ有スル所有主ニハ必ス一ヶ年以内ニ堅牢ノ屋根ニ改良スヘキヿヲ至急命令セラルベシ

（三）屋宇ノ全部藁或ハ木材ヲ以テ葺修セル家屋ノ所有主ニハ五年ノ期限内ニ抽藏ヲ以テ堅牢ノ屋根ニ改良スベキヿヲ命令セラルベシ

第二期ニ於テハ（第二）ノ命令及ヒ（第三）ノ抽藏ヲ以テ堅牢ノ屋根ニ改良セル者ノ家屋ヲ成ルベク速カニ保険スベシ

第三期ニ於テハ右ノ外又従来藁若クハ木材屋根ナリシヲ堅牢ナルモノニ改良セル家屋ヲ改良後直地ニ保険スベシ

第十一項　人口二千五百以上ニ及フ各市府ニ於テハ家屋保険ヲ為スノ順序左ノ如クナルベシ則チ其

第一期ニ於テハ

(一) 屋根ノ全部若クハ其大部分ヲ瓦或ハ薬鈦ヲ以テ葺修シ一モ藁葺アラサル各家屋ヲ成ルベク速カニ保険スベシ

(二) 屋根ノ一部分藁葺ナル家屋ヲ有セル所有主ニハ其屋根ヲ一年以内ニ取除クベキ旨ヲ速カニ命令セラルベシ

(三) 其他ノ所有主則チ藁葺家屋ノ持主ニハ三年以内ニ抽籤ヲ以テ期限ヲ定メ其藁屋根ヲ取除クヘキヿヲ命セラルベシ

第二期ニ於テ堅牢ナル屋根ヲ全成セル家屋及ヒ従来薄板(ヒワ)札或ハ木皮ヲ以テ葺修セル家屋ヲ成ルベク速カニ保険スベシ

第三期ニ於テハ右ノ外従来藁屋根ヲ有シ今之ヲ取除キタル者ノ家屋ヲ其改良後直チニ保険スベシ

第十二項 家屋保険局ヲ設立セラレタル後ハ人口二千五百以上ノ地ニ於テ唯タ瓦或ハ薬鈦ヲ以テ葺修スル家屋ノミヲ許可セラレ而メ斯等ノ家屋ハ成ルベク速カニ保険セラルベシ

第十三項 人口二千五百以下ニ係ル各地ニ於テハ其家屋ヲ成ルベク速カニ保険セラルベシ

第十四項 両箇ノ村落若シ互相接近スルトキハ之ヲ一箇ノ保険地ト見做シ其人口ヲ合算シテ土地等級表中相当ノ等級内ニ記入スベシ

補

両箇ノ地所ノ接近トハ各其外端ニ在ル家屋間ノ拒離一丁以内ナルヲ云フ

第十五項　四方少リモ一丁内ニ家屋無キ空地ニ由テ隔断セラルヽ地所ハ之ヲ特立ノ保険区ト見做シ其固有ノ人口ニ従テ土地等級表中相当ノ等級内ニ記入スベシ

補

如斯キ一部内ノ人口数ハ之ヲ其本貫村落ノ惣人口数ヨリ引去リ而メ該本村ハ其人口ニ應シテ土地等級表中相当ノ等級内ニ記入スヘシ

第十六項　例ヘハ山、湖、川及森等ニ擁テ隔絶保護セラレ近郷ヨリ生スル火災尼焼ノ危害ヲ防護スル地又ハ多クノ囲圃ニヨリテ本区ヨリ遮断セラルヽ地ハ土地等級表中一等ヲ下シテ保険ヲ受クルヲ得ヘシ然ル如斯キ地所ノ人口数ハ其本貫村落ノ人口数ヨリ引去ラサルベシ

第十七項　東京府内ノ保険賦金表ハ其他両府内ノ賦金表ト同

額タルヘシト雖モ本案第十四、十五及十六項ニ従ヒ東京府内ノ各部ニ就テハ漸ヤ之ヨリ低廉ノ表目ヲ定ムヘシ（例ヘハ九ノ内及其他東京府下ノ人家密接セサル地）

第十八項　家屋等級第一等ニ位スル家屋即チ富豪ノ家屋ハ其火災危害ノ割合ヨリ聊カ多額ノ保険賦金ヲ沸ハサル可カラサルモノトス

第十九項　家屋火災危害ノ度ニ従テ定メサル保険賦金ノ定費ハ（地震、暴風雨、洪水及戦争ニ就テノ保険費、社務、消防、豫備金、東京府内ノ賦金減少ノ補充及ヒ其他種々ノ事ニ就テノ費用）保険金毎百円ニ付六十戔ト定ム

学校、病院其他慈恵ノ目的ニ供スル諸家屋ハ此保険賦金ノ定費ヲ免スベシ

補

此定費拂入免高ニ就テ其統計表ヲ設クヘシ

第二十項　左ノ人口ヲ有スル村落ニ於テ保険金毎百円ニ付家屋保険賦金ノ不定費ハ左ノ如シ

火災危害等級第一級	今二級	今三級	今四級	今五級	今六級
合二千五百人ニテ　四〇ノ〇七五	〇ノ一五	〇ノ二〇	〇ノ三〇	〇ノ三五	〇ノ四五
今五千人ニテ　四〇ノ一五	〇ノ三〇	〇ノ四〇	〇ノ六〇	〇ノ七〇	
今一万人ニテ　四〇ノ二五	〇ノ四五	〇ノ六〇	〇ノ九〇	一ノ〇五	
今二万人ニテ　四〇ノ三五	〇ノ六〇	〇ノ八〇	一ノ二〇	一ノ四〇	
今四万人ニテ　四〇ノ三七五	〇ノ七五	一ノ〇〇			
今八万人ニテ　四〇ノ四五	〇ノ九〇	一ノ二〇			
今十六万人ニテ　四〇ノ五二五	一ノ〇五	一ノ四〇			
今十六万人以上　四〇ノ六〇	一ノ二〇	一ノ六〇			

第二十一項　火災危害等級ハ之ヲ左ノ表ニ従テ定ムヘシ

周圍ノ壁	石或ハ土蔵造ノ壁	塗壁或ハ木、泥及藁ヲ以テ造タル壁	板壁
家根 瓦或ハ武カ葺	第一級	第二級	第三級
苫板或ハ樹皮葺	第三級	第四級	第五級
藁葺	第四級	第五級	第六級

千八百七十九年九月廿九日東京ニ於テ　ペ、マイエット

六藝之